

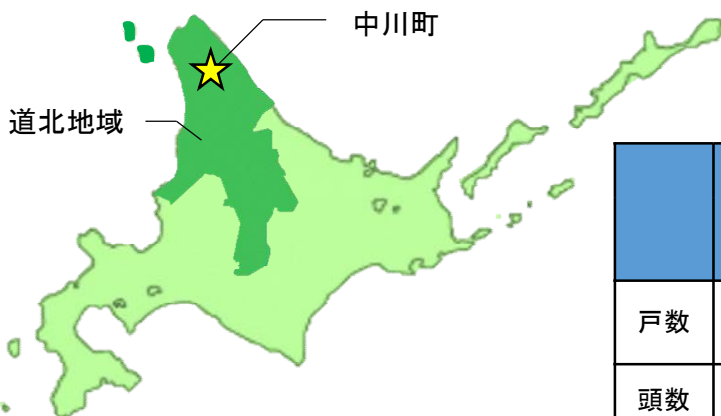
道北地域を考える酪農セミナー

はじめに

北海道の酪農は、家族経営が大宗を占めていますが、人口減少や高齢化に伴い、担い手の減少が進み、家族経営の維持や労働力の確保が極めて重要となっております。

本道における放牧酪農は、飼料生産・給与や排せつ物処理等の省力化や経営の低コスト化など、ゆとりある経営の展開が期待できることから、道では、地域の自然条件に応じた放牧技術の普及・定着に向け取り組んでいるところです。

こうした取組の一環として、平成30年11月8日、上川総合振興局管内中川町で、上川・留萌・宗谷各管内の酪農家等を対象に、放牧をテーマとしたセミナーを開催しました。



中川町は、上川管内最北部に位置します。
地形は山岳地と平地に大別され、平地は一部の泥炭地を除き、肥沃で農耕に適しています。
春は雨が少なく秋に多くなり、また、寒さが厳しく積雪も多い地域です。(中川町HPから抜粋)

	乳用牛	肉用牛	農作物作付面積(ha)		
			飼料用作物		飼料用作物以外
戸数	27	6	採草放牧地	デントコーン	567.2
頭数	1,827	257	1675.8	82.0	

中川町農業委員会調べ(平成29年度、飼養戸数・頭数は平成29年2月1日現在)

プログラム

1 開会

2 挨拶

川口 精雄 中川町長
山下 満 北海道上川総合振興局産業振興部長

3 講演「搾乳ロボットを利用した放牧酪農経営における乳牛の草地利用と課題」

講師 北海道大学大学院農学研究院教授 上田 宏一郎 氏

4 講演「放牧酪農の実証例」

講師 中川町 丸藤牧場 丸藤 英介 氏

5 パネルディスカッション「これからの道北酪農における放牧酪農の可能性」

パネラー 上田 宏一郎 氏(北大大学院農学研究院)、石田 亨 氏(元根釧農業試験場)、
丸藤 英介 氏(中川町 丸藤牧場)、高原 弘雄 氏(天塩町 高原牧場)、
守部 学 氏(猿払村 守部牧場)

司会進行 大坂 郁夫 氏(北海道立総合研究機構 酪農試験場天北支場)

6 閉会

道北地域を考える酪農セミナー：講演概要

北海道大学大学院農学研究院の上田宏一郎教授から「搾乳ロボットを利用した放牧酪農経営における乳牛の草地利用と課題」と題して、「放牧に搾乳ロボットを導入した農家における草地利用・ロボット利用状況」の調査結果を踏まえ、放牧経営における搾乳ロボット導入の技術的課題や地域としての可能性などについて、ご講演いただきました。



丸藤英介氏から、放牧酪農の実証例として、丸藤牧場での取組についてご報告いただきました。

丸藤氏は、中川町に新規就農して11年目の酪農家であり、飼料自給率が高く、循環型放牧酪農によって、牛が心身ともに健康で、100年以上続く牧場を目指しています。牧場で実践している放牧地・採草地の利用計画や施肥管理などについて、お話しいただきました。



「これからの道北酪農における放牧酪農の可能性」と題して、上田教授、丸藤氏の他、高原氏（天塩町酪農家）、守谷氏（枝幸町酪農家）、石田氏（元根釧農試）をパネラーとして迎え、パネルディスカッションを行いました。放牧を取り入れた経緯や今後の経営展開、新しく放牧に取り組む方に向けたアドバイスなどについてお話しいただいた他、会場からは、施設投資への考え方に係るパネラーへの質問や、地域で共同して大規模な放牧酪農を展開する構想などについて、意見が挙がりました。

